

とばたぎ おんおおやまかさぎょうじ 戸畠祇園大山笠行事

所在地/北九州市戸畠区
指定/重要無形民俗文化財



戸畠祇園大山笠行事（幟大山笠）（北九州市）



戸畠祇園大山笠行事（提灯大山笠）（北九州市）

「戸畠祇園大山笠行事」は、毎年7月第

4 土曜日をはさむ3日間行われる祭りで、
国の重要無形民俗文化財に指定されています。今からおよそ220年前、須賀大神に病
気や災いがなくなるよう祈り、治まったお
礼に山笠をつくり祝ったことがその始まり
と伝えられます。

山笠は昼と夜とで違う姿を見ることがあります。昼は漆で塗られた勾欄（※1）で台座を囲み、旗のような幟（※2）を12本立て、武者絵などを題材とし、金糸などをふんだんに使用した豪華な幕をまといます。正面には和紙でできた「前花」、後ろには「見送り幕」を飾ります。夜は昼の山笠と同じ台座を使用しますが、309個の提灯をピラミッドのように12段（約8.5m）に組み上げ、昼の姿とは想像もつかない形になります。この提灯大山笠が組み上

がる様子は、見る人たちを驚かせます。

この祭りは、東、西、天籟寺、中原の4地区で行われていますが、いずれの地区的山笠も地域の担ぎ手たち自身によって組み上げられ、担がれます。山笠の下には、楽器の笛、鉦、太鼓、銅拍子を奏でる「囃子方」が入り、祭りの雰囲気を盛り上げます。

※1 勾欄：神殿などのまわりや橋、廊下などの両側につけた手すり。

※2 幟：お祭りなどで用いる旗の一種。

【もっとくわしく調べたい】

○戸畠祇園大山笠公式ホームページ <http://tobatagion.jp/>

【行ってみたい】

○戸畠祇園大山笠 毎年7月第4土曜日をはさむ3日間